

第90回 相模湖地区まちづくり会議 全体会 結果

- 日 時 令和6年4月25日(木)・19時開会
- 場 所 相模湖総合事務所 3階 大会議室
- 出席委員数 18名出席(3名欠席)
- 傍聴者 1名

1 開会

2 代表あいさつ(河津代表)

○河津代表からあいさつの後、代表の司会により進行した。

3 報告事項

(1) 相模ダムリニューアル工事について

神奈川県企業庁からPR動画などを使用して説明が行われた。

(○意見・質問、⇒回答)

○投影したPR動画をお借りして色々なところで流すことは可能か。

⇒ホームページにアップロードしているので色々なところで流してほしい。今後通学路などへの影響もあるので各学校を回ってこの動画を流したり、説明を行うことを予定している。

○工事中の見学について計画はあるか

⇒工事中もダムへの見学は継続する予定であり、工事を見学する展望施設はR8年度に整備する予定である。

○ダムの工事は日曜日休みと考えていいのか。

⇒施工業者にもよるが、働き方改革の関係もあり、基本的には土日休みとしている。しかし、雨が降らない冬季にしかできないため、工期の遅延の恐れがある場合、休日に工事をさせてもらうお願いをするかもしれない。

○桂橋の手前から奥畑を抜ける道が朝方かなり混む。工事が重なると更に自動車の往来が激しくなると予想される。通学路にもなっているので事故だけは気を付けてほしい。

⇒施工業者が決定次第、事業計画を確認したい。こちらについては課題として認識している。

(2) 相模湖地区まちづくり会議 委員の変更について

まちづくりセンターから千木良小学校 PTA から推薦していただいている委員が、溝口委員から田後委員に変更があったため紹介が行われた。

(3) 中山間地域振興モデル地区（小原）について

まちづくりセンターから添付資料に沿って説明が行われた。

4 協議事項

(1) 第8期相模湖地区まちづくり会議専門部会について

事務局から添付資料に沿って説明が行われ、添付資料案のテーマが全て承認された。

(2) 第8期相模湖地区まちづくり会議日程案について

事務局から添付資料に沿って説明が行われ、添付資料案のとおり承認された。

5 各部会等からの報告

各専門部会長から各専門部会の取組状況について説明があった。

- ・産業・観光専門部会からダムカレー事業の振り返りについて報告があった。
- ・地域ケア会議から添付資料に沿って報告があった。

6 その他

- ・事務局より添付資料の第1回ダムカレー世界選手権について説明を行った。産業・観光部会からこの取り組みをダムカレー事業参加各店舗に案内していくとの周知が行われた。

7 閉会（鈴木副代表）

以 上

第90回 相模湖地区まちづくり会議 全体会 次第

日 時 : 令和6年4月25日(木)・19時～
場 所 : 相模湖総合事務所3階 大会議室

1. 開 会
2. 代表あいさつ
3. 報告事項等
 - (1) 相模ダムリニューアル工事について
 - (2) 相模湖地区まちづくり会議 委員の変更について
 - (3) 中山間地域振興モデル地区(小原)について
4. 協議事項等
 - (1) 第8期相模湖地区まちづくり会議専門部会について
 - (2) 第8期相模湖地区まちづくり会議日程案
5. 各部会等からの報告
6. その他
7. 閉 会

第7期 相模湖地区まちづくり会議委員名簿

令和6年4月・敬称略

番号	役職	所属団体等		氏名
1	代 表	地域活性化事業 交付金活動団体	サンタクロースプロジェクト	河津 暁
2	副代表	自治会関係	相模湖地区自治会連合会	森久保 高弘
3	副代表	公募委員	-	鈴木 克枝
4	理 事	教育・スポーツ・ 文化関係関係	相模湖地区公民館運営協議会	藤井 行雄
5	理 事	安全・安心 関係団体	緑区安全・安心まちづくり協議会相模湖支部	小川 達雄
6	理 事	地域活性化事業 交付金活動団体	さがみ湖コンシェルジュ	吉良 奈美乃
7	理 事	産業・経済 関係団体	一般社団法人 相模湖観光協会	石井 克佳
8	委 員	自治会関係	相模湖地区自治会連合会	井上 道夫
9	委 員		相模湖地区自治会連合会	岸 義之
10	委 員		相模湖地区自治会連合会	佐々木 裕修
11	委 員	保健・福祉 関係団体	相模湖地区民生委員児童委員協議会	清水 孝夫
12	委 員		相模湖地区社会福祉協議会	砂金 富保
13	委 員		相模湖地域包括支援センター（相模湖地区地域ケア会議）	遠藤 亮裕
14	委 員	産業・経済 関係団体	相模湖商工会	小野沢 健二
15	委 員		与瀬商栄会	岸野 和広
16	委 員	教育・スポーツ・ 文化関係関係	相模湖地区小学校PTA「桂北小学校」	倉田 真由美
17	委 員		相模湖地区小学校PTA「千木良小学校」	田後 悠江
18	委 員		相模湖地区小学校PTA「内郷小学校」	川上 はぎ乃
19	委 員		相模湖地区中学校PTA「北相中学校」	加藤 清子
20	委 員		相模湖地区中学校PTA「内郷中学校」	川村 千穂子
21	委 員	公募委員	-	橋本 久美子



令和5年9月7日
相模原市発表資料

小原地域活性化に向けた小原の郷の有効活用検討事業に係る サウンディング型市場調査の結果概要を公表します

おぼら さと
小原の郷は地域の優れた自然環境や神奈川県内で唯一現存する小原宿本陣を生かした観光拠点として地域の活性化を図るとともに、市民の交流に寄与するための施設として設置されております。更なる地域活性化に当たり民間事業者等の視点を取り入れた新たな有効活用方策について、現状の使い方にとらわれない新たな実施手法や運営手法等の提案を民間事業者の皆様と直接対話する「サウンディング型市場調査」を実施しましたので、その結果を公表します。

1 実施経過

実施時期	内容
令和5年4月17日(月)	実施要領の公表
令和5年5月10日(水)	事前説明会の開催【参加団体：2団体】
令和5年5月29日(月)～7月6日(木)	対話の実施【参加団体：5団体】

2 対話内容

- (1) 実施手法、事業運営について
- (2) 小原の郷及び小原地域全体を活性化させるためのアイデアについて等

3 結果概要

別紙のとおり
(対話内容を地域振興・交流、物販・飲食提供等4つの機能に分けて整理しています)

4 今後の予定

今回のサウンディング型市場調査の結果等を踏まえ、今後の施設の機能向上や事業主体の整理・検討を進めてまいります。

お問い合わせ

緑区役所相模湖まちづくりセンター
電話 042-684-3240 (直通)



相模原市緑区イメージキャラクター

サウンディング型市場調査の結果について

①地域振興・交流機能

<ul style="list-style-type: none"> ・建物や敷地をみんなで育てていくコンセプト ・花のゾーン、遊べるゾーン等のゾーン分け ・芝生エリアを子どもの遊び場としてゾーン化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドッグランの設置・イベントテントの設置 ・防災施設としての機能（炊出しや備蓄倉庫） ・地域住民が会議や打合せを行う場
--	---

②歴史や自然に触れる機能

<ul style="list-style-type: none"> ・刀や大名衣装を活用した外国人向けの体験型施設としての活用 ・遠足の行先としての設定 ・薪割り体験、薪をシェアする拠点 ・展示方法の工夫（ガラスケースではなくインテリアとして活用） ・藤野の工房と木工品でコラボ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員が駐在する学習施設としての活用 ・湖が大きな資源となるため、水の自然を学ぶ場所 ・季節ごとのイベントやワークショップの開催（津久井産材の活用） ・小中学生向けの見学施設（平日） ・季節に合わせた展示や企画
---	--

③物販・飲食提供機能

<ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカーやフードトラックの活用 ・様々な自動販売機の活用（野菜販売、（冷凍）食品販売、アイスクャンディー） ・サイクリストの休憩スポットとしての活用 ・宿泊施設やワーキングスペース ・ここでしか食べられない料理の提供 ・地元で採れた野菜の販売（生産者組合による安定供給が必須） ・コンビニの要素 ・ワンハンドフード（ソフトクリーム等）の販売 ・テラス席を併設したカフェ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発酵食品や乾物の生産、都心では体験し難いワークショップの開催 ・セルフで入れるコーヒーマシンの導入 ・市内のブルーベリーや卵を使ったスイーツの販売 ・市内のお土産がすべて購入できる施設 ・宿泊施設としての活用（参考：タカオネ） ・初心者向けのキャンプ、グランピング施設としての活用 ・屋外に飲食スペースを確保
---	---

④高尾山や相模湖等と連携した観光機能

<ul style="list-style-type: none"> ・小原～古民家～相模湖の回遊性 ・登山コース付近にあるお寺との連携事業（座禅体験等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・高尾山からの登山ルートを整備 ・登山コースを活かしたキャンペーンや企画
---	---

⑤その他

<ul style="list-style-type: none"> ・芝生の一部をドッグランとして活用 ・ゴミ箱の設置 ・施設内が見える外観の工夫 ・車で通る人の目に留まる外観の工夫 ・駅から歩ける距離であるが、道中にある歴史的な施設についての説明（看板等）が少なく、散策を 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の雰囲気と合わせたトイレの外観 ・24時間利用できる（宿場町風）トイレの整備 ・道の駅のような印象があり、トイレ休憩地として好立地
---	--

<p>楽しむ仕掛けがほしい印象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材や岩を活用したリノベーション ・流木を活用したインテリア ・天井の高さを活かした布を使った空間の区分け ・モニターツアーを活用し、生の声を集める ・インフルエンサーを使った宣伝（ガイドブックより効果的） ・外国語の整備（看板や説明書き等） ・リノベーションに係る水道口径や電力容量等の見直しが必要 ・民家が近いので、配慮が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア車庫の見学 ・ターゲットを設定し、一貫したプロモーションを行う ・ハード面の整備の無駄にならないよう、スモールスタートが効果的 ・人件費削減のため、機械に頼る ・物販や飲食は人件費等のコストをかけるのではなく、必要コストを整理してから整備していくべき ・地域との連携が必須になるため、指定管理の年数を考慮
---	---

小原の郷における交通量調査報告

地点No.1（国道20号 小原の郷前）の結果

[24時間の自動車交通量]

- ・ 休日は**計7,804台**、平日は**計6,523台**を計測。休日の自動車交通量は平日を1,000台以上上回る傾向。
- ・ 休日の23時から翌朝5時は計431台/6時間が通過し、1時間当たり片方向の台数は36台(同条件平日311台)

[24時間の歩行者自転車通行量]

- ・ 歩行者は休日に**109人**、平日に**66人**、自転車は休日に**131台**、平日に**64台**を計測。歩行者/自転車ともに休日は平日から概ね倍増する傾向。

地点No.2（小原の郷 出入口）の結果

[7時間の自動車交通量]

- ・ 休日は**計222台**、平日は**計184台**を計測。休日は平日に比べて小型車を中心に交通量が増加。
- ・ 駐車場需要ピークは12時台前半の12台(24台出入/2)

[7時間の歩行者自転車通行量]

- ・ 歩行者は休日に**33人**、平日に**6人**、自転車は休日に**8台**、平日に**4台**を計測。
- ・ 休日は**ハイカー**（18人）と**サイクリスト**（8台）がそれぞれ歩行者・自転車通行量の多くを占める傾向。

地点No.1（国道20号 小原の郷前）と地点No.2（小原の郷 出入口）の関係

- ・ 国道20号を通る**自動車**のうち小原の郷に立ち寄る割合をみると、休日は**約3%**、平日は**約4%**。
- ・ 国道20号を通る**自転車**のうち小原の郷に立ち寄る割合をみると、休日は**約6%**、平日は**約9%**。
- ・ 今後、**立ち寄り割合の向上に向けて自動車向け・自転車向けの誘客の取り組みが必要。**



- 今年度の分科会「小原宿拠点活用検討会」の活動報告 - 発足から1年、活動の成果をご報告します！

このまちづくり通信は、相模原市が分科会「小原宿拠点活用検討会」とともに「中山間地域振興モデル地区」の取り組みの一環として定期的に発行するものです。
先号では、小原の郷の改修（リノベーション）のアイデア等、分科会「小原宿拠点活用検討会」の議論の一部をご紹介しました。今号では、今年度の活動の成果と来年度の取り組み予定についてご紹介します。来年度はさらに取り組みの幅を広げていきますので、ぜひ裏面もご覧ください！

「おばらまるしえ」の企画・開催 主な狙い：小原宿のファンの獲得、参加者同士の交流

【第1回まるしえの開催報告】

開催日時	8/26（土）
開催場所	小原の郷
来場者数	延べ300人
出店店舗数	20店舗



初めての開催でしたがたくさんの方々に来場いただき、店先がにぎわう様子が見られました！



【第2回まるしえの開催報告】

開催日時	11/25（土）
開催場所	小原の郷・小原宿本陣
来場者数	延べ600人
出店店舗数	30店舗



楽器演奏や子ども達によるフラダンスの披露もあり、たくさんの方々を楽しむ姿が見られました！



ご来場いただきありがとうございました！次回「おばらまるしえ」は5/18（土）に開催予定です。お楽しみに！

小原の郷の改修のあり方検討 主な狙い：小原の郷の利活用促進、本陣等との連携、地域全体の活性化

3/2に開催された分科会「小原宿拠点活用検討会」にて、改修のコンセプトや機能の考え方等、改修の方針を右記のように整理しました。

先号でご紹介した建物内のレイアウトは現在も検討中で、以下のような意見・アイデアが集まっています。

【改修のコンセプト】 - 小原の郷をこんな場所にしたい！

「自然と歴史の入口として、地域と来訪者がつながるおもてなしの拠点」

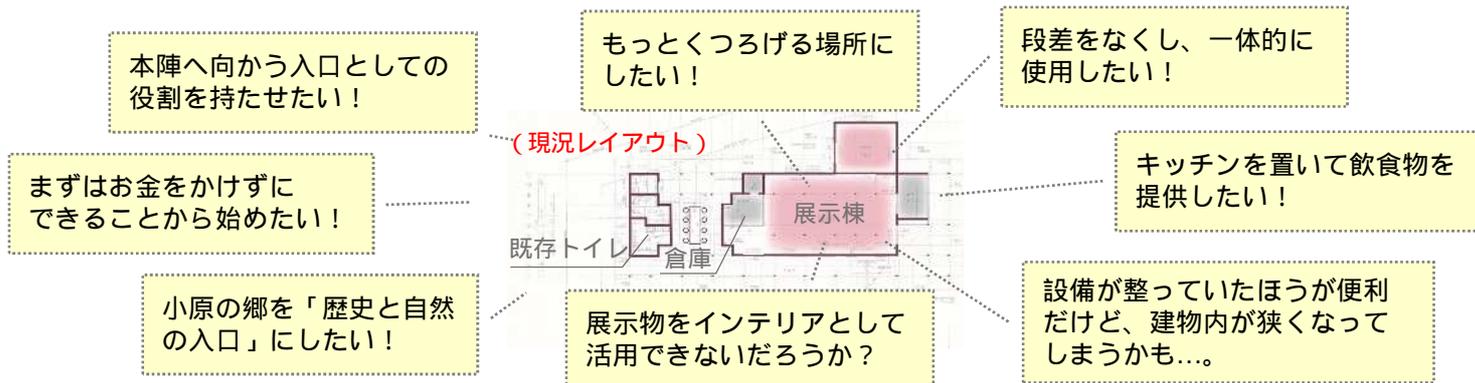
- ・ 甲州道中の趣を残す小原宿らしい津久井産材を用いた落ち着いた空間にしたい！
- ・ 飲食・物販を通じた賑わい、体験プログラムを通じた交流の拠点にしたい！

【機能の考え方】 - 小原の郷をこんな風に使いたい！

平時 **人と人がつながり、普段の生活をちょっと楽しくする、地域の新たな活動拠点**

休日・観光シーズン **体験プログラムを通じた交流をはじめとする来訪者をもてなす場**

【建物内のレイアウト】 - 建物の中をこう変えたい！（現在も検討中の内容であり、掲載中の意見はあくまで一例です。）



来年度も、建物の改修や整備プロセスの検討を続けていきます。ご関心のある方、ぜひご参加ください！

来年度の取り組みのご紹介

分科会「小原宿拠点活用検討会」は
さらに取り組みの幅を広げていきます！

1 体験プログラムの 企画・実施(新規)

自然体験やものづくり体験など、
小原の地域資源を活かしたプログラム
を企画・実施します！

詳しくは、「広報さがみは
ら(5/15発行)」や「すもう
よ緑区」でご確認ください！

QRコードからも
ご覧いただけます



2 小原の郷の案内看板 の設置(新規)

より多くの方々に小原の郷へ立ち
寄っていただけるよう、国道沿いの
出入口等に案内看板を設置します！

看板のデザイン等は、現在検討中
です。お楽しみに！

3 大学との連携(新規)

國學院大学観光まちづくり学部の
授業で学生のみなさんが小原を訪れ、
観光まちづくりの提案を行います。

地元向けの発表・報告会も予定さ
れています。ぜひお越しください！

下記の日程・場所はあくまで予定です。
確定版の日程・場所は、次号まちづくり通信でお知らせします！

中間発表

6/15(土)10:30 ~ @小原集会所

地元報告会

7/20(土)13:00 ~
@相模湖総合事務所か藤野総合事務所

4 「おばらまるしえ」の 企画・開催

次回「おばらまるしえは

令和6年5月18日(土)

開催予定です。出店情報等は続報を
お待ちしております！

5 分科会「小原宿拠点 活用検討会」の開催

表面でご紹介した内容の継続検討
等、小原の活性化、そして相模湖地
区全体の活性化・回遊性向上に向け
た話し合いを引き続き行います！

次回の分科会は4/13(土)に小原集会所にて開催予定です。
ご関心のある方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください！

お問い合わせ先

相模原市緑区 相模湖まちづくりセンター
総務・地域振興班

分科会「小原宿拠点活用検討分科会」
会長 永井充

TEL : 042-684-3240
MAIL : sagamiko-cen@city.sagamihara.kanagawa.jp

TEL : 090-3319-0932

(1) 第8期相模湖地区まちづくり会議の専門部会について

○部会の設置及びテーマについて (案)

部会	テーマ・内容	共通テーマ
産業・観光部会	<p>(テーマ) 相模ダムリニューアル工事と併わせた地域 PR 事業</p> <p>(内 容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光周遊ルートの設定 ・関係団体・機関と連携したボランティアガイドの育成 <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模湖地区の観光地（小原宿本陣、石老山、相模湖湖畔等）を案内する十分な知識と接遇マナーを有する（仮称）相模湖観光マイスターを育成・認定し、相模湖全体の観光の活性化とともに地域の歴史・伝承を次世代へつなげていく取組を進めていく。 	<p>(テーマ) 地域の担い手となる若者の育成</p> <p>(内容) 産業・観光部会・子ども・若者部会ともに地域の若い世代に対して、歴史や知識などを継承し、地域の担い手として育成する視点も取り入れた検討を行う。</p>
子ども・若者部会	<p>(テーマ) 若者・女性視点を取り入れた情報発信</p> <p>(内 容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者・女性視点を取り入れた SNS 等（YouTube、TikTok・X）による情報発信。 <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立津久井高校の学校カリキュラムや生徒会等の参画の依頼を行う。 ・地域イベントの運営参加や出店者としての参加についても検討する。 ・若い目線から見えた相模湖地区の長所や課題を挙げてもらい、これからのまちづくり会議に反映していく。 	

○専門部会構成員の振り分けについて（案）

・今回のまちづくり会議全体会終了後に令和6年5月末を締切として各団体へ委員の推薦を依頼。



・推薦者へアンケートを発送し希望の専門部会の意向を確認。



・6月末のまちづくり会議全体会にてアンケートの集計結果を元に専門部会の編成（案）を提示。

第8期相模湖地区まちづくり会議の開催日程及びまちづくりを考える懇談会の開催日程について

区分	開催年月	役員会	全体会	まちづくり を考える懇談会	備考		
前期	R6	6月		27日		<p>【令和6年度 まちづくりを考える懇談会開催日】 令和6年11月下旬頃を検討している。</p> <p>※8月から10月にかけて毎月会議が予定されているのは 懇談会に向けた調整を行うため。</p> <p>原則、役員会は第2木曜日、全体会は第3木曜日</p>	
		7月					
		8月	15日	22日			
		9月	12日	19日			
		10月	10日	17日			
		11月			●		
		12月	12日	19日			
	後期	R7	1月				
			2月	13日	20日		
			3月				
			4月	10日	17日		
			5月				
R8		6月	12日	19日			
		7月					
		8月	14日	21日			
		9月	11日	18日			
		10月	16日	23日			
後期	R8	11月			●		
		12月	11日	18日			
		1月					
		2月	12日	19日			
		3月					
後期	R8	4月	9日	16日			
		5月					

○ダムカレー事業の振り返り（産業・観光専門部会総評）

・スタンプラリーで6店舗回らなきゃいけないのは多かった。営業が不規則なお店が多かったから、40人も回り切ってくれたのは上出来だと思う。

・グリーンスポット、見晴らしドライブイン以外は食べに行った。この取り組みは継続していく必要がある。一部の非協力的な店舗についてはこれからの事業の中で考える必要があるのではないかな。

・八王子から来た人に食べに行ってもらったことがあったが、ただのカレーだねと言われておしまいだったことがあって残念だった。カレーの価格帯についてはある程度統一感を持った方がいいのではないかな。

・地域から発信した事業が形になったのはすごいと思う。これから続けていくために店舗への協力をしていく必要がある。

・やはりスタンプラリーが6店舗は多かった。やってよかったと思う。一部の非協力的な店舗も見られたのでそこについては考えたい。

・熱心な店舗とそうでない店舗がある。店舗については改めて声掛けをしたいところや整理をしていきたい。やはりスタンプラリーが6店舗は多かった。これからもうまく継続してほしい。

第4回相模湖地域ケア会議地域づくり部会報告

- ◇日時 令和6年3月5日(火)午後1時30分～午後3時45分
- ◇場所 相模湖総合事務所3階 A 会議室
- ◇出席者 別紙名簿参照(委員出席7名・事務局7名)
- ◇内容

1. 開会

石井部会長のあいさつにより開会。

会議冒頭に「中山間地域医療検討会」について、医療政策課より説明。検討会委員として、相模湖地区地域ケア会議地域づくり部会より1名の推薦を求められた。
→石井部会長に決定。

2. 議題

(1)個別事例部会の報告について

資料のとおり説明。

ケース① 本人が地域で困っていること等があったら、ケアマネに連絡が出来るような認識が出来た。

ケース② 認知症の当事者が混乱なく、一人暮らしが継続出来るよう、かかわりのある地域の方との情報の共有と認知症からの行動の理解を深めた。

ケース③ 母子世帯。母の急な入院により、精神障害の子が一人自宅に取り残された。世帯状況の把握がない中で緊急に多面的な支援が必要であった。日常的な近隣とのつながりと、専門職の世帯把握の必要性を再確認した。

(2)認知症理解普及啓発の取組について

認知症地域支援推進員(包括職員)より説明。

- ・今年度サロンなどに協力をいただき、認知症サポーター養成講座を7回実施し、延べ99人が受講した。うち1回は多世代を対象にオンラインにて開催した。
- ・「認知症世界の歩き方実践ワークショップ」のファシリテーターの資格を取得した。認知症の理解を深めるためのワークショップを開催できる。
- ・令和6年1月1日から認知症基本法施行された。今後ますます、認知症になっても、希望をもって暮らせるまちづくりを推進する取り組みが必要となる。認知症当事者の声を多く聞き、知ってもらえるような場を作っていきたい。

(3)地域で取り組む買い物等支援について

事務局より、内郷地区乗り合いタクシー「ドアツードア輸送」実証運行、社会福祉法人の行う地域貢献活動「うきうきショッピングバス」、パルシステム神奈川による「ステーションパル受け取り拠点」について情報提供(参考資料のとおり)

意見交換(○委員 ●事務局)

- バス便がある所には乗り合いタクシーが運行できない。
- けんこう号を便利に活用したい。診療所の件もあり、区内を便利に利用できるようになるとよい。
- 毎回同じような課題が出ている。交通の件は行政にも手伝ってもらわないとならない。意見も出してもらわなければ。他の地域では衛星回線を使った無人カーの実証実験もある。運転手不足も深刻。地方に行けば運転する人がいない。タクシーの運転手をやめて、体が健康な人などに運転を担ってもらいたい。そういう方を行政で把握したらよいのではないか。ライドシェアはその管理をする業者がないので相模湖では実施できない。資源がないことが問題である。
- 乗り合いタクシーの実証実験は登録者が13人。実証実験であるのに、利用者がかなり少ないのではないか。新たな登録者を増やすことにつながるか。
- 既存のサービスをPRして、なるべく利用していくことが部会の活動になるか。多くの人に利用してもらうことが必要。そのための広報活動ができないか
- 乗り合いタクシーもいろいろ問題点がある。利用料金の件や登録者のことなど。登録者13人が2か月間の期間にどれだけ利用するか。今回は3月に終了し結果は5月以降。2回目の実証実験が9~10月に実施される予定。
- 相模湖駅から藤野方面にも乗り合いタクシーが走っているが、横橋地区では、フレサへの買い物の希望がある。神奈中のバス路線とかぶってしまうので、相模湖駅からフレサ方面への運行は乗り合いタクシーを走らせることは難しい。神奈中と市長でけんかをしろと言っているところ。奥畑も同じ理由で運行が難しい。東日本台風の前は60%程度の乗車率だったが、コロナ禍で40%くらいの利用率になった。
- ドア to ドアの運行をしたら、定期運行の時刻は乱れないのか
- 予約利用なので、大幅に時間が乱れたりほしくない。
- 現状では利用者が1便当たり2人いないくらい、そのくらいの乗車であるのにドアツードア利用者には追加料金を徴収することは疑問。通常運行と同料金でないと意味がないのではないか
- 乗り合いタクシー対象の地域に住んでいる。今は自分たちで運転できているが、これから先自分で運転できなくなったらどうにもならなくなる。そのために廃止にならないような取り組みが必要。今のうちから乗っておいて10年後も仕組みが続いているようにしておかないとならない。
- タクシーと言う名称ならばもっと自由に路線が取れたらよい

- 有償運送協議会では、介護認定された人はタクシーの半額以下で利用できる移送サービスのことについて話し合われている。交通空白地域での有償運送については今後勉強が必要と思う
- 足の悪い人は駅の近くでもたくさん利用したいと思う
- 足の問題については引き続き地域と行政等で検討が必要である。

(4)作業部会(百歳体操交流会)について 資料により説明

意見交換(○委員 ●事務局)

- 実際に参加してみた。自分としては少し物足りないが、大勢知っている人が参加されていた。
- 横橋地区でも百歳体操の場があるとよい
- 集会所が老朽化しており、安全面に課題がある。少し手をかけないと高齢者の集まる場としては難しいと思われる。
- 他地区の民生委員で、練習がまったくできなかつたのにハーフマラソンのタイムが早くなった人がいた。毎週百歳体操だけやっていたとのこと。体操の効果が出ていると言われていた。若い人でも効果がみられるようだ。
- 一人で体操するのは継続が難しいが、皆で集まってやると、次回も参加しようと言う気になる
- 自身が関わっている百歳体操の仲間も、膝の痛みが取れた、正座できるようになった、神経痛が治った、よく眠れるなどの感想もあり、「ここに来るとみんなに会えるから楽しみ」という声も聞かれる。仲間になって、相談ごともちかけられることもある。つながりの場としても大切である。
- 今回のような「つどい」は年1回程度やってもよいと思う。もっと百歳体操のPRがあってもよい。日常的に身近なところでできるようになっていたら良いと思う。
- 場を作る時に、社協でモニターやDVDプレーヤーの貸し出しがあることをPRしたほうが良い。
- けんこう号を使って、体操の後買い物などにも行ってほしい。また、4月からリフレッシュセンターにて拠点型の体操を始める、高齢障害者支援課が主催。所属があっても、週2回程度体操ができる環境があるとよいので是非参加してほしい。また、地域で始めるきっかけにもなると思う。けんこう号も送迎できるので、利用して会場まで来たい方がいたら相談してほしい。

(5)高齢者地域情報誌について

包括より説明。6月に印刷する。今年度から紙面を大幅にリニューアルした。サロンやシニサポの活動中の写真を多く掲載している。

意見交換(○委員 ●事務局)

○写真が多く入っているのはとても良いと思う

●来年度はもっと掲載を増やす予定

○シニサポの仕組みについて、教えてもらいたい。申請したら補助金が出る。

●介護度がつかない人等を対象にした、介護予防の活動。拠点型と訪問型があり、集って介護予防的な体操をしたりおしゃべりをしたりする拠点型と、ゴミ出しやそうじ洗濯などをサポートする訪問型がある。運営者5名以上の団体の活動に対して、市に申請すれば、シニアサポートの団体として補助金が出る。

●利用する方は包括ケアプランを作成し、担当者会議を開く

○移送についてはどうなのか

●団体によりできる、出来ないがある。

3. 報告事項

(1) ちょこポラ相模湖実績報告

資料説明 質疑等はなし。

4. その他

(1) 第9期地域ケア会議地域づくり部会委員の推薦について

3年間やってきたことを、継続して審議していきたいため、現委員全員に委員として引き継ぎの参画を依頼した。

最後に3年間のまとめとして、出席委員、職員より一言ずつ発言いただき、大神田副部長によるあいさつで、閉会となった。

以上

第1回 ダムカレー世界選手権 ～決壊！華麗なルー皿～ 開催の件

■ 実施内容

現在、相模原市民に渦巻く市内に対する懸念の一つ「相模原って何も無いよね～」。でも実は、市内では過去に多くの団体が名物の開発に取り組んでまいりました。しかしながら、あまり定着はせず、作っては無くなり、無くなっては作りの繰り返しでした。そして、相模原に名物が生まれぬまま、そろそろ市政 70 年を迎えるところです。このままでは、相模原にとっての大転換期であるリニア開通時、これといった名物が無いまま多くの観光客を迎える事になってしまうでしょう。そこで、本市が神奈川で唯一、市内に7つのダムを有す事に着目し、ダムカレーをツールに SNS を活用し共感を集める事で、新しい名物としての立ち位置を確立させ、相模原のブランディングを行ってまいります。

■ 開催内容

相模原市内及び各ダム周辺飲食店にて実施。開催店舗は当会 SNS にて告知します。開催店舗には目印となるようダムカレー世界選手権のポスターが掲示されます。→→→
開催期間 2024年8月1日～8月31日



■ 企画内容

① 世界 V.S. 日本！？ 世界のダムに相模原のダムが挑む！

ダムカレー世界選手権の舞台となるのは、市内に7つのダムを有する相模原。世界の名だたるダムをモチーフにしたダムカレーを迎え撃つのは、相模原をはじめとする日本のダムカレー！相模原市内の飲食店でダムカレーを食べ SNS(X・旧 Twitter、Instagram)に上げてみよう！その中で、最も共感(いいね！、RP(RT)、シェアの合計値)が多いものが優勝！世界一のダム(カレー)の栄冠はいずこに！？

② 実在すれば異世界でも OK！？ あの壁も参戦だと…！？

ダムならまだしも、壁も参戦できるとは…。しかも、異世界だと！という事で、実行委員会の厳しい基準(?)をクリアし、それらしいものならば参戦可能に！ダム(?)カレーの新しい可能性に満ち満ちた、新たなカレーが爆誕する！！かも。

③ 決壊動画が勝敗のカギ！？ SNS 投稿やアクションで景品もゲット！

審査となる投稿は、写真はもちろんの事、動画も OK！ 大きさを感じる「壮大さ」に、カレーの「美味しさ」、決壊する時の「迫力」、その三拍子揃ったダムカレー動画は、きっと日本中の夕飯をカレーにする事でしょう！また、ダムカレー投稿や投稿記事にアクションするだけで、辛あわせな景品が当たるチャンスも！



↑ 雄大な自然に佇む城山ダム
相模原の大きなレガシー。



↑ アメリカのフーバーダム。
こんなダムもカレーになる！？



← 超大型巨人参？まさかの異世界から「壁」が参戦！？ダムカレーだけどダムとは限らない？動画にすると迫力満点！



事業についてのお問い合わせ先 << 担当者連絡先 >>

ダムカレー世界選手権 実行委員会 実行委員長

電話: 080-6617-5300 担当: 八木 健芳(やぎ たけよし)

メール takeyoshi@yagi-liquors.co.jp